

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 11 月 4 日(2022.11.4)

【公開番号】特開 2021-122357(P2021-122357A)

【公開日】令和 3 年 8 月 30 日(2021.8.30)

【年通号数】公開・登録公報 2021-040

【出願番号】特願 2020-15949(P2020-15949)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 10 月 26 日(2022.10.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
演出動画を表示可能な表示手段と、
遊技者が操作可能な操作手段と、
演出を実行可能な演出制御手段と、を備え、
前記演出制御手段は、
前記表示手段にキャラクタの演出動画を表示する所定演出を実行可能であり、
前記所定演出の第 1 期間において、演出の進行速度が第 1 速度である演出動画を前記
表示手段に表示可能であり、
前記第 1 期間よりも後の前記所定演出の第 2 期間において、演出の進行速度が前記第
1 速度よりも遅い第 2 速度である演出動画を前記表示手段に表示可能であり、
前記有利状態に制御されることを示唆するリーチ演出を実行可能であり、
前記リーチ演出を開始した後に特定演出を実行可能であり、
前記リーチ演出が実行される可変表示の開始に対応する第 1 タイミングと、前記リー
チ演出が実行される可変表示の開始よりも前の第 2 タイミングと、を含む複数のタイミン
グにて前記操作手段を振動させる所定振動演出を実行可能であり、
前記特定演出の実行期間である特定演出期間にて前記操作手段を振動させる特殊振動
演出を実行可能であり、
前記特殊振動演出として、
前記特定演出期間にて前記操作手段と異なる演出用可動体の動作に対応させた第 1
特殊振動演出を実行可能であり、
前記特定演出期間にて画像表示に対応させた第 2 特殊振動演出を実行可能であり、
前記所定振動演出が実行されないときよりも、前記所定振動演出が実行されるときの方
が、前記有利状態に制御される割合が高く、
前記所定振動演出と前記第 1 特殊振動演出とで、振動態様が異なり、
前記所定振動演出と前記第 2 特殊振動演出とで、振動態様が異なり、
前記第 1 特殊振動演出と前記第 2 特殊振動演出とで、振動態様が異なる、
ことを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正 2】

50

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

手段Aの遊技機は、
 可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
 演出動画を表示可能な表示手段と、
 遊技者が操作可能な操作手段と、
 演出を実行可能な演出制御手段と、を備え、
 前記演出制御手段は、
 前記表示手段にキャラクタの演出動画を表示する所定演出を実行可能であり、
 前記所定演出の第1期間において、演出の進行速度が第1速度である演出動画を前記表示手段に表示可能であり、
 前記第1期間よりも後の前記所定演出の第2期間において、演出の進行速度が前記第1速度よりも遅い第2速度である演出動画を前記表示手段に表示可能であり、
 前記有利状態に制御されることを示唆するリーチ演出を実行可能であり、
 前記リーチ演出を開始した後に特定演出を実行可能であり、
 前記リーチ演出が実行される可変表示の開始に対応する第1タイミングと、前記リーチ演出が実行される可変表示の開始よりも前の第2タイミングと、を含む複数のタイミングにて前記操作手段を振動させる所定振動演出を実行可能であり、
 前記特定演出の実行期間である特定演出期間にて前記操作手段を振動させる特殊振動演出を実行可能であり、
 前記特殊振動演出として、
 前記特定演出期間にて前記操作手段と異なる演出用可動体の動作に対応させた第1特殊振動演出を実行可能であり、
 前記特定演出期間にて画像表示に対応させた第2特殊振動演出を実行可能であり、
 前記所定振動演出が実行されないときよりも、前記所定振動演出が実行される時の方が、前記有利状態に制御される割合が高く、
 前記所定振動演出と前記第1特殊振動演出とで、振動態様が異なり、
 前記所定振動演出と前記第2特殊振動演出とで、振動態様が異なり、
 前記第1特殊振動演出と前記第2特殊振動演出とで、振動態様が異なる、
 ことを特徴としている。
 手段1の遊技機は、
 遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態など）に制御可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、
 演出音を出力可能な音出力手段（例えば、スピーカ8L、8R及び音声制御基板13に搭載されている音声合成用IC079SG132、音声データROM079SG133、増幅回路079SG134）と、
 演出動画を表示可能な表示手段（例えば、画像表示装置5）と、
 前記表示手段にキャラクタの演出動画を表示するとともに該キャラクタの演出動画の表示に伴って前記音出力手段により演出音を出力する所定演出（例えば、リーチ演出）を実行可能な演出実行手段（例えば、演出制御用CPU120）と、
 を備え、
 前記演出実行手段は、
 前記所定演出の第1期間において、演出の進行速度が第1速度である演出動画を前記表示手段に表示可能であり（例えば、図10-19～図10-25に示すように、第1リーチ演出、第2リーチ演出、第3リーチ演出、第4リーチ演出のそれぞれの前半部分実行期間中に各リーチ演出の動画が進行速度V1にて画像表示装置5に表示されている部分）、

前記第 1 期間よりも後の前記所定演出の第 2 期間において、演出の進行速度が前記第 1 速度よりも遅い第 2 速度である演出動画を前記表示手段に表示可能であり（例えば、図 10 - 19 ~ 図 10 - 25 に示すように、第 1 リーチ演出、第 2 リーチ演出、第 3 リーチ演出、第 4 リーチ演出のそれぞれの後半部分実行期間中に各リーチ演出の動画が進行速度 V2 にて画像表示装置 5 に表示されている部分）、

前記所定演出に対応する演出音については、前記第 1 期間と前記第 2 期間とのいずれにおいても、演出音に関する速度を同一速度にて前記音出力手段により出力可能であり（例えば、図 10 - 19 ~ 図 10 - 25 に示すように、第 1 リーチ演出、第 2 リーチ演出、第 3 リーチ演出、第 4 リーチ演出のそれぞれの前半部分実行期間中と後半部分実行期間中において、スピーカ 8 L、8 R から BGM や演出音等が通常の再生速度である V4 にて出力されている部分）、

10

前記音出力手段は、音を再生する再生回路（例えば、音声合成用 IC 079SG132）と、該再生回路で再生された音を増幅する増幅回路（例えば、増幅回路 079SG134）と、該増幅回路で増幅された音を出力するスピーカ（例えば、スピーカ 8 L、8 R）と、を含み、

さらに、

遊技者が操作可能な操作手段（例えばスティックコントローラ 31 A、プッシュボタン 31 B など）と、

前記操作手段が振動する振動演出として、所定振動演出（例えば操作部演出パターンに含まれる振動パターンによる振動モータ 131 の駆動など）と特殊振動演出（例えば可変表示演出制御パターンに含まれる振動制御データによる振動モータ 131 の駆動など）とを実行可能な振動演出実行手段（例えばステップ AKS203 にて決定された操作部演出制御パターンや可変表示演出制御パターンの振動制御データを用いてステップ S172 の可変表示中演出処理を実行する演出制御用 CPU120 など）と、

20

前記所定振動演出に伴い前記操作手段を発光させる発光演出（例えば操作部演出パターンに含まれる発光色によるレバーランプ 9 B1 およびボタンランプ 9 B2 の発光など）を実行可能な発光演出実行手段（例えばステップ AKS203 にて決定された操作部演出制御パターンのランプ制御データを用いてステップ S172 の可変表示中演出処理を実行する演出制御用 CPU120 など）と、

遊技の進行に応じて特定演出（例えば SP リーチ A のリーチ演出、大当たり確定報知、大当たり種別抽選など）を実行可能な特定演出実行手段（例えばステップ AKS203 にて決定された可変表示演出制御パターンに基づいてステップ S172 の可変表示中演出処理を実行する演出制御用 CPU120 など）と、を備え、

30

前記所定振動演出が実行されないときよりも、前記所定振動演出が実行されるときの方が、前記有利状態に制御される割合が高く（例えば操作部演出パターンなどに応じた大当たり信頼度など）、

前記所定振動演出に伴う前記発光演出の発光態様と、該所定振動演出が実行されたタイミングとに応じて、前記有利状態に制御される割合が異なり（例えば操作部演出パターンに含まれる発光色と操作部演出パターンの用途に応じた大当たり信頼度など）、

前記振動演出実行手段は、前記特定演出の実行に伴い前記特殊振動演出を実行可能であり（例えば期間 AKZ01 ~ AKZ05 における振動演出の実行など）、

40

前記所定振動演出と、前記特殊振動演出とで振動態様が異なる（例えば振動パターン AKV41 ~ AKV44 とは異なる振動パターン AKV01 ~ AKV03 など）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、所定演出の演出動画の進行速度は第 1 期間と第 2 期間とで変化するが、所定演出に対応する演出音に関する速度は第 1 期間と第 2 期間とで変化しないので、遊技者に対して違和感を与えてしまうことを防止できる。また、再現性の高い演出音を適切な音量にてスピーカから出力することができる。また、振動演出の振動態様や発光演出の発光態様、振動演出の実行タイミングに注目させて、遊技興趣を向上させることができる。

50